

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for グループホーム 藤野の杜 つぐみ.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム藤野の杜では、グループホーム単体事業として、平成28年10月にオープンいたしました。閑静な住宅街に周囲の木々からの鳥のさえずり、さらには藤野周囲の山々が望むことのできる環境にあります。更に、裏手には小学校があり、登下校や授業時の子供の元気な声が、入居者に元気を与えてくれます。建物の特徴といたしましては、2ユニット18名の方が一階の平屋で完結していることもあり、互いが交流しやすいことや、災害時にスムーズに避難ができることです。また、2階には多目的室を設けており、地域の方々との交流の場としての位置づけや、同法人内三事業所が集まる研修会の場、大規模な行事の場として、交流を深めています。さらにここ数年においては、地域包括支援センターや介護予防センター、区保健師や、社会福祉協議会のお力をいただきながら、藤野地区の介護、高齢者事業所の横のつながりを持つべくふじネットを開催し、情報共有、意見交換などを行い、地域の方にも溶け込んでいたいただけるよう、働きかけを行っているところです。高齢者の方々が安心して暮らせるよう、そして地域の福祉力の向上につなげられるよう、微力ながらお手伝いもさせていただいております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501759-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Contains details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は最寄りのバス停から近く、生活に便利な商店や金融機関等が立ち並ぶ自然豊かな住宅街に位置している。1階には、2ユニットがあり、2階は、十分なスペースがある多目的室を設け地域交流の場として開放している。隣接の小学校の卒業式に向け利用者として作成したメッセージプレートをテラスに掲げ、下校の卒業生に「仰げば尊し」を合唱してお祝いをしている。コロナ禍により外出も制限があるが、敷地内の畑や花壇、桜や栗などの樹木を眺めながらの散歩やクルミ拾い等で外気に触れている。また、ドライブで行楽地に出かけ気分転換を図っている。室内レクで「夏の縁日」を企画し、綿飴やヨーヨー釣りなどお祭り気分につけ、さらに内容豊富な行事食やおやつ作り、ピザやケンタッキーなどを用意し、外食の雰囲気作りに努めている。家族や地域住民とは開設以来良好な関係を築き、意見や提案を運営の改善に生かしている。管理者は「言葉にしくなくとも、隣にいってくれるだけで安心」と、利用者にも思われる運営を目指しており、職員はその思いを共有し、日々利用者の心身に寄り添っている。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-65) regarding service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「豊かな暮らしができるよう」支援はしている。さらにはユニット理念「尊厳を守り笑顔あふれる生活を」～マスクの下は笑顔かな～も掲げてチーム一丸となって取り組んできた。	地域の中で豊かな暮らしの支援を「であいふれあい ささえあい」の文言で表現した法人理念を共有している。さらに、ユニットごとに理念を掲げ、課題が生じた時や会議等で理念の持つ意義を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	社会性の維持が図れるよう、地域行事への積極的な参加をしていたが、現在ではコロナウイルス感染予防の観点から、ほとんど参加する機会が減ってしまっている。オンラインでの健康教室や、小学校とのつながりは持つようにはしている。	地域交流は自粛しているが、車椅子の利用者も一緒に周辺の清掃活動を独自で行っている。隣接の小学校の卒業式や入学式には、利用者と制作したメッセージをテラスに掲げ祝福している。また、毎年児童からアレンジした花が届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	藤野地区では高齢者事業所の横のつながりを持つよう、ふじネットというネットワークを構築している。現在コロナ禍で活動が止まっているが、代表幹事で定期的にオンライン会議を開催、活動再開時にできることの話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の観点から、今年度は書面会議での開催となってしまった。取り組みに対しての評価や要望を頂戴し、反映できるよう努力している。	コロナ禍により書面会議とし、利用者や職員の状況と活動報告、事故報告や感染症関連等を議事録に集約し、推進委員や家族に配っている。委員から労いの言葉や意見、情報が寄せられ、管理者は感謝の言葉や意見等を詳細に説明している。	取り組み状況等を公表し、開かれた事業所として推進委員と相互の理解に努めているが、家族の意見が少ない状況下にある。対面会議再開に向け、より活発な意見や情報交換の実現を検討しているので、期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業運営に関する疑問や不明点など、市へ随時質問をし、曖昧にしないよう努めている。地域では地区事業所同士でのネットワーク「ふじネット」を開催し、包括支援センターや地区担当保健師などにも参加いただいている。	行政とは、管理者が電話や郵便等でそれぞれの担当者と関わりを持っている。介護予防センター主催のオンラインによる健康教室に利用者が参加している。運営推進会議に参加の地域包括職員から事業所の現況に助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設置し、入居者の処遇改善、不適切な介護が行われていないか検討している。検討した内容を全職員へ通達している。事例検討を増やし振り返りの場を作っていきたい。	開設時からのケア向上委員会をベースに指針を作成し、委員会や研修会を開き適切なケアへの共通理解に努めている。さらに標語を毎日復唱し、研修後にアンケートを実施するなど、より深い意識付けを図っている。センサーは、家族の同意の上、使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、身体拘束適正化委員会が中心となって、内部研修を開催し、学ぶ機会を設けているが不十分である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会を開催しておらず、知識としては不十分である。全職員が基礎知識を習得できるよう努力していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族にお会いし、十分な説明をしたうえで理解をいただいている。改定ごとに限らず、常にご家族との話し合いの場を大切にしながら、疑問や不安など一つ一つ解決できるように努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置、利用者には普段の生活の中で、ご家族には面会時などでご要望などをお聞きし、カンファレンスや申し送り時に情報共有している。3か月に一回季刊誌を発行し、個別欄を設け工夫を凝らしている。	家族には年4回、季節便りを発行し、また、定期的にブログで利用者の生活状況を報告している。関わりから利用者や家族の要望・意見を受けとめ、業務やケアの改善に生かしている。家族の要望で、職員の名前と顔写真をユニット入口に掲示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンス、個人面談など職員は運営に関する気づきや意見を述べて、管理者も参列し可能な限り反映できるよう努力している。	職員は、利用者の担当者としてより密に関わっているが、業務の中で他の利用者からも状況を把握し、内容を引き継ぎ等で伝えている。管理者やリーダーによる個別面談でも職員は意見を述べており、運営や職場環境の整備に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用しての個人面談を行い、評価、目標の設置などモチベーションを上げるための支援は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会が年間計画を立て、内部研修の充実を図っているが、その効果が業務に反映しているかは客観的評価がしにくい。資格取得に向けた外部研修には積極的に参加していただいている。業務に関しては新人教育に向けての負担が一部職員にのしかかることがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が中心となり、藤野地区の事業所ネットワーク(ふじねっと)に参加、代表幹事会などを定期的に開催し、今後の取り組みについて協議が行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず事前訪問や来訪していただいたの面談を実施。ご本人様の取り巻く環境について理解したうえでかかわるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日翌日には、ご家族へ日中や夜間の様子をお伝えし、安心を得てもらっている。初期の段階では、ご家族も不安が強いため、情報交換を行い、関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のできる範囲でのサービス機関の調整を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を念頭に置き、できることは積極的に参加していただき、生活の知恵もいただき感謝しつつ、共に過ごす時間を共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪の際は、近況や、普段の生活状況をお伝えし、把握していただいている。また、ブログや、藤野便りの発行、お電話などでご本人とお話をさせていただいたりし、関係が途切れぬよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人や関係機関とのやり取りは、介入しながら関係が途切れないようお手紙などの方法をとり支援している。	自粛により窓越しやリモート面会を行っていたが、感染状況に鑑み距離を取っての面会を計画している。看取り時の面会は、柔軟に対応している。家族や知人からの電話や手紙を取り次ぎ、ドライブで馴染みの行楽地を訪れるなど、人や場との関係性を大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や、認知度の状況を把握しながら、席の工夫や、趣味の合うもの同士の接点を持ってもらう機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、ご家族が来訪したり、介護の相談支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや申し送りで情報共有ができ、一人ひとりの思い、希望を尊重できるよう取り組んでいる。	意思の疎通が難しい事もあるが、職員は、利用者のふとした言葉や動作を記録に残して情報を共有し、思いや意向を推し量っている。状況によってはケアプランに反映し、満足が得られるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には暮らしシートに記載していただき、生活支援に役立たせていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員を担当制にして、個々の状況の把握に努め、カンファレンスなどで情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援ができるよう、また、家族、本人の希望も常に聞き取りながら職員が担当入居者のアセスメントを実施、情報共有しケアプランを作成している。	ケアプランは、利用者や家族の意向を重視して作成している。評価や課題分析を行い、医療従事者の意見も踏まえ、現況に応じた支援目標を立案している。研修で学んだ介護記録とケアプランの連動性を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中から気づき、ケアにつなげることができるようカンファレンスでモニタリング、アセスメントを実施しながらケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭菜園の収穫やクल्ミや栗拾いなどを実施し、利用者が主体となれる環境づくりに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防センター主催のオンライン健康講座や体操ボランティアの方による体操教室に積極的に参加、普段とは違う変化を加えることで生活にメリハリをつけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回の内科往診に加え、ご要望があれば、かかりつけの他科受診にも応じ、できる限りの支援はさせていただいている。	大部分の利用者は月2回、協力医による訪問診療を受けている。馴染みのかかりつけ医や専門医への受診は、看護師の資格を有する管理者が同行支援を行い、どちらも受診結果は家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常駐の看護師が、介護職員などからの情報をいただきながら、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者(看護師)が中心となって、入院機関と情報を密にしながら、環境へのダメージを少なくするよう早期退院にむけ連携を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族へは入居前に重度化の指針は説明している。看取りについてもできる範囲とできない範囲を説明し、了解を得ながら行うとともに、途中過程においても随時、家族や医療機関と連携や確認をとりながらすすめている	契約時に、重篤時における対応を指針に沿って出来る事出来ない事を説明し、同意を得ている。初めての看取りを経験している。研修で看取りケアのあり方を学び、その実践に努めながら今後に向けさらなる知識や技術の習得を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備はしているが、デモンストレーションのような体験型学習については不十分な部分があり、実践型研修を取り入れていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年二回)に避難訓練を実施。避難経路の確認、消火器の保管場所、使い方は全職員の共通認識事項である。一方で、地域の協力が十分に得られていないため、接触の機会ができれば地域の方々にも参加の協力を要請していきたい。	年2回、地震を含む日中・夜間想定火災避難訓練を利用者で行っている。水害を想定して昇降機も活用しながら2階へ移動する訓練を計画している。管理日誌に防災に向けたチェック欄を設け、職員の意識統一に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重に念頭を置き、言葉遣いに気を付けながら日々行動をしているが、職員の都合に合わせた声掛けや支援、配慮に欠けた声掛けも時折聞かれる。職員一人一人の言動を振り返り反省し次につなげている。	利用者への尊厳は、ユニット理念に掲げ実践に努めている。プライバシーに関することは、イニシャルや部屋番号等を使い、声のトーンや言葉遣いなどにも配慮しているが、適切で無いときは、管理者がその都度助言をしたり、研修会で振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に沿って自己決定ができるよう声掛け、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本はケアプランに沿って支援をしている。その時の行動や状況にあわせ現状に沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は日々の生活で行っており、特に行事の際はおしゃれなどをして、自分らしさが表出できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事、誕生会などで工夫した食事提供を行っている。盛り付けにも工夫を凝らし、味だけではなく見た目にもこだわっている。片付けも一緒に行っている。	業者からのメニューと食材に菜園や家族からの自家製野菜を加え、和・洋・中華など豊富な食事内容になっている。時にはアレンジをし、食欲に繋がる味付けや盛りつけ、器などに気を配っている。誕生日は、希望のステーキや刺身などを用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のレベルに応じ食形態の工夫を行っている。水分については、好みなどに合わせ、すずみが悪い方に関しては、ゼリーなどへ変更するなど工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かせないように支援、声掛けは行っている。しかし口腔内の隅々までの観察がしっかり行っているかは言い難い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄行動やパターンを把握し、利用者の動きなどに合わせ、声掛け誘導を行っている。おむつ対応の方についてもできる限りトイレでの排泄を試みている。	半数の利用者は自力でトイレに向かっている。時には2人介助や夜間のみポータブルトイレの使用とそれぞれだが、トイレでの排泄を支援している。布下着の着用や必要最小限の衛生用品を活用し、失敗の軽減と人格の尊重に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には必ずオリゴ糖入りのヨーグルトを提供。便秘気味の方においては、水分の促しも積極的に行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者は週二回の入浴を実施している。気分などのむらがある場合は無理強いせず別日に変更し、本人本位の支援を行っている。	入浴は、リフトを備え基本的に同性介助とし、湯船の中で寛げる支援に取り組んでいる。拒否がある場合は、声かけの工夫と時間や日程調整を行っている。湯加減等の要望には柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床、起床ともに利用者のペースに合わせている。眠れない時は暖かい飲み物などを提供、転倒予防の意味で居室内に赤外線センサーを設置し安全配慮に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、入居者のお薬情報や注意点などの情報はおろしている。下剤は状態によって、調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作活動や体操、ゲームなどを通じて達成感や満足感を得ている。テラスや、外庭での外気浴や散歩なども取り入れ、気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響にて遠出の外出が極端に減ったが、それでも可能な限り人出の少ないところへの外出などの機会を設けることができた。近所へのお散歩など希望される方に沿った支援も行っている。	外出も制限があるが、敷地内で畑の野菜や花壇、桜や栗などの樹木を眺めながらの散歩、クルミ拾い、テラスや外庭で外気浴、ドライブで恒例の行楽地へ、受診帰りに利用者の馴染みの農園に立ち寄るなど、可能な範囲での外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの管理を行っているが、ご自分で金銭の所持をされる方については、現金が紛失しないよう注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で会えないご家族へ電話にてご本人と取次ぎを行ったり、利用者からの要望にはできる限り答えている。年賀状や友人あてなどへの封書も代理で投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては窓から一望できる自然景観を主体に置き、そのほかに季節の花やクリスマス、ハロウィン、正月飾りなどで季節感や生活感を楽しんでいただいている。	玄関先には色とりどりの花の寄せ植えがあり、室内の窓からは連山の四季折々の姿が眺望できる。共用空間にある絵画や家族から届けられる花々、観葉植物や季節飾り等が潤いをもたらしている。利用者は、居間や談話室で自分の時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	趣味の合う同士で意図的に席を変えてみたり、他者との交流が難しい方においては、個別にレクリエーションを施したりと工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に打ち合わせを行い、なじみのある家具などを持ち込んでもらっている。	6帖ある居室には、クローゼットと介護用ベッドが設置されている。小タンスなどの家具や仏壇等が持ち込まれ、また、写真や創作レクで作った作品等が飾られており、安心できる居場所作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名札を付けており、居室内部においても色違いのクロスを貼り付け、トイレには夜間でもスポットライトが当たり、視覚での認識ができるよう工夫されている。		